

K A W A K A M I D A M 2008

川上ダム通信

1月号



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

地域の「安全・安心」に寄与する川上ダム建設を目指して!

平成20年第1号の川上ダム通信の発行にあたり、川上ダム建設所に勤務する職員を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

本年は、川上ダム建設所が伊賀市(旧青山町)に事務所を構えてから26年目となります。この間、国及び三重県、地元伊賀市(旧青山町)などのご協力を得て事業を展開してまいりました。

平成19年は、川上ダム建設事業にとって大きな節目の年でありました。国土交通省において、待望の「淀川水系河川整備基本方針」が8月16日に策定され、引き続き8月28日には、同省近畿地方整備局から淀川水系河川整備計画原案が公表されました。これにより今年度末には川上ダムの建設が明確に位置づけられ、今後は伊賀地域と下流淀川・木津川沿川地域の洪水被害の軽減、水道用水の確保、既設木津川上流ダム群の治水機能の長寿命化(堆砂除去)のための代替補給などの目的を持って、事業を進めていくこととなります。

さて、平成20年は川上ダム建設事業を大きく前進させる年となります。ダム事業関連の法手続が着々と進む中、関係の皆様のご支援のもと平成20年度予算は本体関連準備工事である転流工工事を含め36億円を確保することができました。

私たち水資源機構川上ダム建設所では、地域の「安全と安心」を担う川上ダムの早期完成を望む皆様の切実な声に迅速に応えることが、私たちに課せられた使命と肝に銘じ、機構の有するダム築造・管理に関する知見・技術を総動員して、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」という経営理念を実践するとともに、皆様から愛されるダムを目指して、地域の多くの方々と緊密に連携を図りながら、事業進捗に努めて参る所存であります。

平成20年も引き続き皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本年が皆様にとりまして輝かしい1年となりますことを祈念し、年頭のご挨拶といたします。



川上ダム完成予想図



川上ダム建設所長 及川拓治

【川上ダム建設所長 及川拓治】

安全祈願～無事故・無災害での事業進捗を願う～

1月7日(月)、平成20年の川上ダム建設事業が無事故、無災害で進められることを願い、伊賀市阿保にある大村神社にて安全祈願祭を行いました。参加者は今年一年の安全を祈るとともに、事故を起こさないという決意を新たにしていました。

現在、川上ダム建設所では、延べ20万時間の無災害労働時間を継続しており、今後も安全に十分注意して事業の進捗を図って参ります。



【工務課 柴田健一】

安全祈願祭の様子

希少猛禽類の健全な繁殖環境の維持を目指して ～第7回川上ダム希少猛禽類保全検討会を開催～

川上ダム周辺に生息するオオタカなどの希少猛禽類の保全について検討する「第7回川上ダム希少猛禽類保全検討会」が1月24日(木)に川上ダム建設所で開催されました。

今回の検討会では、オオタカやサシバなどの生息環境を視察していただいた後、事業実施区域周辺でのオオタカやサシバなどの繁殖成功の確認、モニタリング調査の継続、猛禽類の餌場となる湿地環境の創出などが審議されました。この検討会は新聞3紙の取材を受け、「川上ダムの影響小さい」などの見出しで翌日報道がなされました。

川上ダムでは、今後も希少猛禽類の保全に取り組むことにより、環境に配慮したダムづくりを進めていきます。

【環境課 水野正明】



現地で説明を受ける委員 (写真中央)



審議状況

マレーシアの技術者が川上ダムを視察

1月25日(金)、マレーシア国から技術者10名が来所し、川上ダムの概要について学びました。一行は、川上ダム職員から統合的流域管理や環境に配慮したダム建設について説明を受けた後、ダムサイトとオオサンショウウオの保護施設を見学しました。特に木津川上流ダム群と川上ダムの統合運用やオオサンショウウオ等の環境保全に関して熱心な質問があり、驚きや深いうなずきの声があがっていました。



【調査設計課 中嶋一彦】

ダムサイトでの説明の様子

オオサンショウウオの一時保護に機構施設が活躍

昨年11月、三重県が前深瀬川の工事施工区域内でオオサンショウウオ調査を行った際に、今年孵化した幼生（赤ちゃん）を発見したため、分散期（幼生が巣穴から川に出る時期）まで川上ダムの保護池で保護していただくようとの要請がありました。川上ダムが保有する保護池はオオサンショウウオの保全対策を検討するために生態等を観察する施設で、平成14年以降4回の産卵と孵化を経験した実績があり、孵化した幼生たちも順調に成長していることから、依頼のあった幼生を保護することにしました。保護当時はオタマジャクシのような姿をしていた幼生も1ヶ月経つ頃には足も生えるほど成長したため、1月23日（水）、三重県の職員や環境アドバイザーの方々と一緒に幼生を放流しました。このうちどれだけ成体（大人）になれるか分かりませんが、元気に成長するように願っています。このように、私達の施設や経験を前深瀬川流域に生息するオオサンショウウオの保全や、保全対策に役立て、今後も環境に配慮したダム事業を進めていきたいと思います。

【環境課 古賀勝之】



放流の様子



放流した幼生

自衛消防訓練を実施

1月22日（火）、伊賀市南消防署の松居副署長・中村消防士長を講師にお招きして消防法・川上ダム建設所の消防計画に基づく自衛消防訓練を行いました。

事務所内（2F湯沸室）で火災が発生したという想定の下、通報・避難訓練を行い、引き続き、両講師のご指導の下、水消火器を使った消火訓練を行いました。

訓練終了後、両講師から訓練の講評並びに昨年度の伊賀市における火事の発生状況やその原因についての講話をいただき、火災を発見した際の対応や初期消火の重要性を学びました。

川上ダムは伊賀市商工会から地域防災協力店に指定されており、今後は多角的な視点での訓練実施や計画を行い、地域と協働しながら防災に取り組んでいきます。

【環境課 磯野正典】



消火訓練の様子

連載企画

～予告～

初瀬街道紹介

大阪・奈良方面と伊勢を結ぶ「初瀬街道」は、現在の松阪市六軒で伊勢街道から分岐し、青山峠を越え名張・室生を経て榛原で伊勢本街道と合流して長谷寺のある奈良県初瀬（桜井市）へと至る街道です。古くは「青山越」「阿保越」と呼ばれました。現在の国道165号、あるいは近鉄大阪線に近いルートを通るこの道は、古代には壬申の乱の際、大海人皇子が名張に至った道であり、天皇に代わって伊勢神宮の天照大神に仕えた斎王が伊勢へと赴いた道で、長い歴史を持つ街道でもあります。

来月号から伊賀・名張周辺の初瀬街道に由来する史跡などについて紹介していきます。

地元の偉人、紹介します！

～西嶋八兵衛～

西嶋八兵衛は慶長元年(1596)遠州浜松に生まれ、慶長17年(1612)17歳で藤堂高虎に仕え、築城に係る設計や見積を行う土木技術者となりました。その後、高虎の孫の生駒高俊が藩主の四国高松生駒藩へ派遣され、栗林公園や満濃池の改修を手がけました。また、三重県内では雲出川の開削や山畑新田の開墾などに取り組み、城和奉行や伊賀奉行を30年間努め、延宝8年(1680)85歳で亡くなりました。

旧上野市には八兵衛の住居跡があり、お墓も正崇寺にあります。大正4年、その功に報いるため、正五位が追贈されました。「水の守護 西嶋八兵衛」の偉業を讃え、今でも香川県から墓所を訪れる人がいるそうです。

次回以降、数回に渡って引き続き紹介をしていきます。



八兵衛住居跡石碑



正崇寺



八兵衛のお墓

ちかた 藤原千方伝説地探訪

〈血首井〉(雌)

千方将軍らが討ち取った敵の首を投げ込んだ深井戸と言われています。

青山側の雄井戸に対して、名張側にあるおうけつ 甑穴は雌井戸と呼ばれています。

※血首井への行き方

近鉄青山町駅から高尾行きバス25分出合下車徒歩1時間40分



血首井(雌)

EVENT

名張市地震防災講演会

地震への知識を深めることで効果的な事前対策を促進し、地震による被害を最小限に抑えようとするもの。講演会の演題は「地震と賢く付き合うために耐震化と家具固定を」で、講師は名古屋大学大学院環境学研究科の福和伸夫教授。つつじが丘地域づくり委員会による自主防災活動の事例発表もある。

○日時／2月3日(日) 13時30分～

○開催場所／名張市蔵持町里の武道交流館いきいき

○入場無料、参加申し込み不要

兼好遺跡公園の梅【花】

徒然草で有名な吉田兼好が葬られた地として現在は兼好遺跡公園となっており、園内、梅がところどころに植えられ、開花シーズンは大勢の方で賑わう。

○日時／2月下旬～3月上旬

○開催場所／兼好塚原(伊賀市種生)

編集後記

あけましておめでとうございます。寒い日が続いておりますが、健康と安全には気をつけてお過ごし下さい。本年も川上ダム建設所職員一同よろしく申し上げます。

【広報誌発行事務局】

編集長 及川 拓治(川上ダム建設所長)

デスク 上村 信幸(総務課長)

北牧 正之(工務課長)

通信記者 立石 浩行(調査設計課)

磯野 正典(環境課)



ISO14001:2004
JQA-EM5769

☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆
◇川上ダム建設所はISO14001を取得し、環境保全を推進しています。この広報紙は古紙配合率100%再生紙を使用しています。◇